

## 周産期看護と異文化コミュニケーション研究

- 日系ブラジル人の事例を通して -

久保田君枝 南谷佐知子 望月章子 刑部万寿美

**A study of the perinatal period nursing and the cross culture  
communication**

- Through the case of Brazilian in Japan -

**KUBOTA, Kimie**

**MINAMIYA, Sachiko**

**MOCHIZUKI, Akiko**

**OSAKABE, Masumi**

### はじめに

日本に日系ブラジル人が多く滞在するようになった理由は、ブラジルの経済不況が長引き、ブラジルの紙幣価値が下がり、失業者が増加し、ブラジル人が働き場を求めている時に日本の政府は1990年に新しい出入国管理および難民認定法（以下、入管法）の改定を行った。それは日本に在留する外国人の労働力不足の打開と「合法的な」外国人労働者の確保が目的であったが、一方で日系人の就労を合法化したため、ブラジルなど南米諸国からの「デカセギ」労働者が急増する結果となった。

特に浜松市は国際的な輸送機器メーカーや楽器メーカーの企業と製造業の街として知られ、労働市場があったため、入管法改定後にはブラジル人が急増した。浜松市のブラジル人登録者数1990年は1457人であったが、2002年には12,111人と増加している<sup>1)</sup>。これは滞在期間の長期化や家族滞在の増加に起因しているといえる。その結果、在日ブラジル人の出産が増加した。

在日ブラジル人が異文化の下で出産することは「ことばの壁」「生活習慣の違い」「文化の違い」などから不安や戸惑いを持つことが予測される。実際に、戸惑っている場面を見ている。

日本に出稼ぎに来ているブラジル人の出産を理解する目的で、「周産期看護と異文化コミュニケーション研究」をテーマに研究を続けている。先行研究は周産期にある在日ブラジル人と周産期に関わっている医療者（医師、助産師、看護師など）に対して、アンケート調査を行った。研究結果から文化、宗教の違いや言葉の壁から生ずる、周産期にある在日ブラジル人と医療者間にコミュニケーションギャップが生じ、双方がストレスとなっているなど、調査対象の具体的な傾向を知るものも多々あった。しかし、調査研究では個性性を捉えるためには限界があり、ケーススタディーを通して周産期初期から育児期までを縦断的に聞き取り調査を行い、周産期にある在日ブラジル人への異文化看護と異文化コミュニケーションの現状の事例を通して個別的に考察する。本研究が在日ブラジル人の周産期看護の一助になればと考えている。

### 研究方法

- 1, 調査対象は浜松市と浜北市に在住している周産期にある日系ブラジル人8組（夫婦）
- 2, 調査方法は、質問紙による面接、聞き取り調査、調査内容をMDに録音した。調査は2ヶ所のクリ

ニックと対象者の自宅を訪問し聞き取り調査を行った。ただし、使用言語がポルトガルの対象にはブラジル人通訳者の同席の下で聞き取り調査を行った。

聞き取りの時期は妊娠中1回、出産後1回の2回、不足情報は電話にて情報収集した。

- 調査期間は、平成14年6月～平成15年3月
- 調査内容は久保田<sup>2)</sup>の「周産期にある在日ブラジル人への看護の現状と問題点」の調査項目を基に一部変更、追加して以下の内容とした。「来日して困ったこと」「妊婦健診」「妊娠中の過ごし方」「出産場面」「出産後」「周産期の慣習」「子育てと予防接種」の7項目である。聞き取り内容は、MDの再生を行いまとめた。
- 倫理的配慮は調査前に調査の目的を説明し、了承を得た対象に行った。MDの録音も同様に了承を得て行った。データは全て個人情報であることから秘密を厳守した。

## 結果

### 1, 事例の背景 (表1)

8組の事例の背景は表1に示すように、年齢は夫26歳～40歳、妻は25～37歳である。結婚生活は最短が3年～最長10年。子どもの数は1人～3人。日系2世～3世、出身地はサンパウロ州とパラナ州である。日本での滞在期間は4年～13年、滞在予定を決めていないは5組、一時滞りが3組である。宗教を持たないは9人、カトリックは5人、世界救世教が2人。

雇用形態は正社員5人、時間給6人、就労時間は日勤7人、日勤と夜勤4人、雇用関係は直接雇用4人、派遣業者は6人、雇用主1人、健康保健の未加入は2人、他の者は国民健康保険、社会保険、共済保険の本人または家族である。

日本語の聞き取りと会話は夫：よくできる3人、まあまあできる5人、妻：よくできる5人、まあまあできる3人、日本語の読み書きは夫：よくできる3人、まあまあできる3人、カタカナできる1人、できない1人、妻：よくできる3人、まあまあできる4人、ひらがなできる1人である。

学歴は夫：大学卒2人、高校卒6人、妻：大学卒3人、高校卒3人、高校中退1人、中学卒1人である。事例A、事例B、～事例Hを以後、A、B～Hと略す。

日本にきて困ったことはことばに困った6組、Bは特になし、Hは妹の子どもの病気のことなどで困った。

今、大切にしていることは家族が3組、Aは子どもと家族を大切に思っている。Eは健康と子ども、Cは普通に生きること、Bはわからない1組である。

### 1, 事例の背景 (表1)

項目 \ 事例	事例 A		事例 B		事例 C		事例 D	
夫・妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
年齢	30歳	31歳	27歳	37歳	28歳	31歳	40歳	31歳
結婚生活	6年		4年		3年		10年	
子どもの数	1人		2人		2人		3人	
出身地	サバ <sup>o</sup> 加	サバ <sup>o</sup> 加	サバ <sup>o</sup> 加	パラナ	パラナ	サンパウロ	パラナ	マツグ <sup>o</sup> 加
日系何世	3世	3世	3世	3世	3世	2世	2世	3世
滞在年数	11年	10年	4年	4年	12年	12年	12年	11年
滞在予定	決めていない		決めていない		決めていない		一時滞在：子どもの小学校入学のため	
宗教	無	無	無	無	カトリック	無	カトリック	カトリック
仕事	会社員	無	製造業	製造業	会社員	無	製造業	無
就労時間	日勤と夜勤		日勤	日勤	日勤と夜勤		日勤	
雇用形態	正社員		正社員	時間給	時間給		時間給	
雇用関係	派遣業社		直接雇用	派遣業社	派遣業社		派遣業	
保健の有無	有り		有り	有り	有り		有り	
保健の種類	社会保険		国民健康保険		国民健康保険		国民健康保険	
日本語の聞き	夫：まあまあできる		夫：まあまあできる		夫：まあまあできる		夫：まあまあできる	

取りと会話	妻：よくできる	妻：まあまあできる	妻：よくできる	妻：まあまあできる
日本語の読み書き	夫：よくできる 妻：よくできる	夫：カタカナできる 妻：ひらがなできる	夫：まあまあできる 妻：まあまあできる	夫：まあまあできる 妻：まあまあできる
学歴	高校卒 高校卒	高校卒 高校卒	高校卒 高校卒	大学卒 中学卒
日本に来て困ったこと	ことば（両親が日本語を話せるので一緒に行動した）	特になし	ことば（相談したくてもできなかった・ゆっくり話してと言った）	ことば（買い物に困った・仕事の中で読めなくて困った）
今、大事にしていること	子ども 家族	わからない	普通に生きること	家族

項目 \ 事例	事例 E	事例 F	事例 G	事例 H
夫・妻	夫 妻	夫 妻	夫 妻	夫 妻
年齢	26歳 25歳	29歳 37歳	35歳 34歳	40歳 32歳
結婚生活	6年	4年	9年	10年
子どもの数	1人	1人	3人	1人
出身地	カパ加 カパ加	カパ加 パラナ	パラナ パラナ	カパ加 パラナ
日系何世	3世 3世	2世 2世	2世 2世	2世 2世
滞在年数	6年 6年	9年 10年	13年 12年	12年 10年
滞在予定	決めていない	一時滞在	決めていない	一時滞在（2年後帰国後歯科開業予定）
宗教	カトリック カトリック	無 世界救世教	無 世界救世教	無 無
仕事	製造業	製造業 無	製造業 市役所	自営業 保健所嘱託員
就労時間	日勤と夜勤（2交替）	日勤と夜勤	日勤 日勤	日勤 日勤
雇用形態	時間給	時間給	正社員 時間給	正社員 正社員
雇用関係	派遣業社	派遣業社	直接雇用 直接雇用	雇用主 直接雇用
保健の有無	有り	無し	有り 有り	有り 有り
保健の種類	国民健康保険	国保加入思考中	夫：社会保険 妻：共済保険	夫：国民健康保険 妻：社会保険
日本語の聞き取りと会話	夫：よくできる 妻：よくできる	夫：まあまあできる 妻：まあまあできる	夫：よくできる 妻：よくできる	夫：よくできる 妻：よくできる
日本語の読み書き	夫：よくできる 妻：まあまあできる	夫：できない 妻：まあまあできる	夫：まあまあできる 妻：よくできる	夫：よくできる 妻：よくできる
学歴	高校卒 高校中退	高校卒 大学卒	高校卒 大学卒	大学卒 大学卒
日本に来て困ったこと	ことば（会社で仕事 が理解できなかった・漢字、ひらがなが読めない）	ことば（自分の言いたいことを伝えられない）	ことば（仕事をしながら覚えた）	妹が生後3日後に子どもを亡くし、健康保険や葬儀のことや精神科へ入院した
今大事にしていること	健康・子ども	家族（一番愛している人達だから）	家族	家族

## 2. 妊娠について（表2）

妊婦健診の受診のきっかけは、8組ともが友人の紹介や身近な人が出産してよい情報を得て受診を決めている。

出産場所を決めるのにAは母親が日本にいるため、日本での出産を決めている。B, E, Hは夫の側で家族と一緒にいたいので日本での出産を決めている。C, Hはポルトガル語を話せる医師がいるからを理由にあげている。

母親になると自覚につながったものは胎動が5人、胎児の写真2人、Aはお腹の膨らみが自覚に繋が

っている。

妊娠とわかって気をつけていたことAはタバコと仕事を止めている。他の7組は食事（カロリー、塩分）塩分制限、体重を増やさない、適度に運動をするなど妊娠中の生活に気をつけて送っている。Hはコーヒー・砂糖を減らし、ジュースをお茶に変え、食事の時間や散歩を30分～60分するなど、睡眠時間に気をつけて、規則的な生活を送るように心掛けている。

E、F、Hはポルトガル語のマタニティー雑誌から妊娠中の情報を得ている。A、Bは実母から情報を得ている。

妊娠中の要望は6組とも特にないとっている、Gはポルトガル語が話せる医師や看護師が慣れているため要望はないとっている。Fは医師からD抗原RH-血液型不適合についての説明不足から、説明を希望している。Hは逆子なので、帝王切開を希望している。

母親学級に夫婦で参加したのはDのみで、他の6組は一人で参加している。Bは参加していない。

## 2. 妊娠について（表2）

項目 \ 事例	事例 A	事例 B	事例 C	事例 D
妊婦健診の受診のきっかけ	婦人科に受診したことがあるため	友人の紹介	いところがS病院で出産したため	近くにあるクリニックのため
出産場所の理由	母親が日本にいるため、日本で出産	日本にいる夫に赤ちゃんを見せたいから日本で出産	医師がポルトガル語を話せる 帰国するとお金がかかる	3人目なので日本で出産
母親になると自覚したもの	お腹の膨らみ	胎動	胎動	胎児の写真
妊娠とわかって気をつけていたこと	タバコをやめた 仕事を辞めた	甘いものを控えた 塩分制限 重いものを持たない	薬・アルコールを控えた 激しい運動は避けた	体重を増やさない カルシウム・鉄分を摂るようにした
妊娠中の情報の入手方法	実母	実母	雑誌・自分の経験	病院
妊娠中の要望	特にない	特にない	特にない	特にない
母親学級	参加	不参加	参加	夫婦で参加

項目 \ 事例	事例 E	事例 F	事例 G	事例 H
妊婦健診の受診のきっかけ	友人から紹介されて	妹、友達が出産したから	姉が出産しているため	姉、友人の紹介
出産場所の理由	夫が帰国できないので、家族一緒にいたいため	妹、友達が出産して安心だから	姉が出産しているため	夫が日本での出産を希望・ブラジルに母親がいない・医師がポルトガル語を話してくれる
母親になると自覚したもの	胎動	胎児の写真	胎動	胎動
妊娠とわかって気をつけていたこと	重いものを持たない 急いで歩かない 体重は15Kg以内	野菜の多い食事 毎日40分歩く 貧血に気をつけた	塩分を少なくした	コーヒーを控えた 砂糖・ジュースをお茶にした 散歩を30分～60分する 規則的な生活をする
妊娠中の情報の入手方法	友人・助産師	姉	日本の雑誌	姉妹・助産師

入手方法	ポルトガル語のテレビ・雑誌	ポルトガル語の雑誌		
妊娠中の要望	特になし	医師の説明不足(D抗原 RH - 血液型不適合)	医師がポルトガル語を話せる・看護師が慣れている	逆子なので帝王切開を希望
母親学級	一人で参加	一人で参加	一人で参加(夫は前回参加)	一人で参加

### 3. 出産、産後について (表3)

初産婦はA, E, H、他は1経産と2経産である。帝王切開で出産したCは反復帝王切開、FはCPDが理由で帝王切開になっている、Hは逆子が理由で帝王切開になっている。他の5人は自然出産である。

出産場面で困ったこと、要望：Aは陣痛が痛くて声を出さないと言われて辛かった、早く産ませてほしかった、お産がどのようにしていくのか説明がなく不安な気持ちで出産をしている。Bは説明がないままに点滴と会陰切開をされたため不満を感じている。Cは前回帝王切開だったので、自然出産を希望したが、破水のため帝王切開になったがその説明が不十分だったため、詳しい説明を希望している。Fは説明のことがわからない時があった、自然出産したかったがCPDで帝王切開になった。Gは陣痛の時に声を出してよいと言ってきてよかったが、急にお産が進んだので内診などすべきことはしてほしいと希望している。

産後に困ったこと、要望：C, F, Hは腰椎麻酔の副作用による頭痛が辛かった。Hは頭痛の副作用の説明をしてほしかった、頭痛があるのに指導を聞かされ辛かった、OP後1日目に寝たままの授乳は辛かった。

AとEは産後の沐浴指導が役に立っている。

Dは夫の協力が得られないが、他の7人は家事、沐浴、オムツ交換、子守りなど協力が得られる状況にある。

夫以外の生活支援者は実母、義母、姉妹、友人などサポートを考えている。しかし、C, D, Hは夫以外の生活支援者がいない状態で子育てをしている。相談者がいないのはD, Gであるが、他の6組は相談者がいる。

### 3. 出産、産後について (表3)

項目 \ 事例	事例 A	事例 B	事例 C	事例 D
初経産別	初産	1経産	1経産	2経産
出産方法	自然分娩	自然分娩	帝王切開	自然分娩
出産場面で困ったこと、要望	お産がどのようにしていくのか説明がなく不安だった・早く産ませてほしかった・陣痛が痛くて声を出さないと言われて辛かった	点滴、会陰切開の説明がなかった	前回帝王切開だったので、自然出産を希望したが、破水のため帝王切開になった。その説明が不十分だった	3人目なので特になし
産後に困ったこと、要望	無し	無し	麻酔のため頭痛で困った	第1子がヘルニアだったので心配
指導について	沐浴が役立った	2回目なので	特になし	特になし
夫の協力	週末に沐浴、オムツ交換、せんたくたたみ	おむつ交換・哺乳	掃除	無し
夫以外の生活支援者	実母(10日間)	妹(2週間)	無し	無し
相談者の有無	妹、実母	友人	義母	無し

項目 \ 事例	事例 E	事例 F	事例 G	事例 H
初経産別	初産	1 経産	2 経産	初産
出産方法	自然出産	帝王切開	自然出産	帝王切開
出産場面で困ったこと、要望	陣痛が辛かったが声を出してもよいと自由にしてくれてよかった	説明のことばがわからない時があった・自然出産したが CPD で帝王切開になった	陣痛の時に声を出してよいと言ってくれてよかったが、内診などすべきことはやってほしかった	帝王切開の麻酔が辛かった
産後に困ったこと、要望	無し	麻酔の影響で頭痛が辛かった 母乳不足でミルクを足した	母児同室の時間を調整してくれてうれしかった	OP 1 日目に寝たままの授乳は辛い 麻酔の副作用の説明がほしかった
指導について	沐浴指導	特になし	前回出産時の母親学級が役に立った	頭痛があるのに指導を聞かされ辛かった
夫の協力	オムツ交換	炊事・洗濯	朝食を作ってくれた	オムツ交換・沐浴 子守り
夫以外の生活支援者	実母（1ヶ月）	友人（沐浴を2週間）	妹	無し
相談者の有無	kクリニック	姉	3人目なので無し	友人

#### 4. 子育てについて（表4）

子育ての情報はインターネット、浜松市情報誌「広報はままつ」、友人、保健所などから情報を得ている。子どもの健診や予防接種の情報は浜松市情報誌「広報はままつ」や保健所など正確な情報が得やすい情報源から得ている。

子どものことばの教育はバイリンガルに育てたい6組、Dはバイリンガルに育てたいと考えているが子どもの考えに合わせる。Fは日本語学校に通わせて日本語能力を着けたいと考えている。Cはどの言語がよいのか考え中、決めかねている。

ブラジル人として子育てをして行きたいと考えている6組、Gは日系ブラジル人として子育てしていきたいと考えている。Fは考え中で決めていない。

臍の緒の保存をしているのは4組、Gは臍の緒の保存と母親から教わったお食い初めをする予定でいる。

今、心配なことは：Aはあかちゃんに目やにが出ているので気になっている。Cはこれからの生活のことが心配になる。Eは子どもの健診・予防注射・離乳食のことが心配。Fは第一子がアレルギー・苦労したのでこの子にアレルギーが出なければよいと思っている。Hは母親が日本語一級試験に合格したいと勉強しているので気になっている。

#### 4. 子育てについて（表4）

項目 \ 事例	事例 A	事例 B	事例 C	事例 D
情報の入手方法	インターネット	広報はままつ 友人	近所の子育て中の人から	保健所・友人・ インターネット
健診・予防接種	保健所	広報はままつ	保健所	保健所
何語で育てたいか	ポルトガル語	バイリンガル	考え中	バイリンガルで育てて子どもに決めさせる
何人として育て	ブラジル人	ブラジル人	ブラジル人	ブラジル人

たいか				
周産期の慣習	臍の緒の保存・洗 礼	無い	無い	洗礼
今、心配なこと	目やにが気になる	無し	生活のこと	無し

項目 \ 事例	事例 E	事例 F	事例 G	事例 H
情報の入手方法	広報はままつ 友人	インターネット	広報はままつ	インターネット 保健所・友人
健診・予防接種	広報はままつ 保健所	2月に帰国	4月に帰国	広報はままつ
何語で育てたい か	バイリンガル	バイリンガル 日本語学校に行か せたい	バイリンガル	バイリンガル
何人として育て たいか	ブラジル人	考え中	日系ブラジル人	ブラジル人
周産期の慣習	臍の緒の保存・洗 礼	臍の緒の保存	お食い初め(母親 から教わった)・臍 の緒の保存	無し
今、心配なこと	子どもの健診・予 防注射・離乳食	アレルギー	無し	日本語一級試験に 合格したい

## 考察

### 1. 対象の背景

在日ブラジル人の滞在期間が長期化の傾向になっている<sup>3)</sup>ように、本研究の8事例中、5事例が滞在期間を決めていないなど長期の滞在になっている。これは、日本経済が不況にあり、仕事量の減少や雇用の解雇などが原因の一つであるが、ブラジルの経済も不安定な状態にあることが滞在期間の長期化に繋がっている。8事例の滞在期間が4年から13年という期間がその現象のあらわれである。浜松市国際室<sup>4)</sup>「外国人の生活実態意識調査～南米日系人を中心に～2000,3」7年以上が45,5%と最多の報告がある。

雇用形態や雇用関係から健康保健の加入状況は浜松市の在日外国人の健康保健の加入<sup>5)</sup>は約3割強であることから、本研究の加入が7事例であったことは恵まれた対象である。ただし、未加入の1事例は家族に子どもを抱えていることから加入が可能になる手続きを検討していく必要がある。

日本語の聞き取りと会話は16人とも困らない状況にあるが周産期のことになると専門的なことばや未体験の内容になることから理解できない場面があるが、ことばに自信のない夫婦は日本語能力の高い家族や友人、通訳の人と同伴で受診している。これは在日ブラジル人が事前にことばへの対応を友人や知人を介して通訳のできる人を自ら選択して受診しているため、ことばに困る状況が生じていない。5年前の先行研究<sup>6)</sup>ではことばの問題に関係していることが多く、ことばの対応として通訳を置いてほしいという声が多かった。現在、浜松市内の3ヶ所の総合病院に通訳をおいていることもあり、ことばの問題の状況が変わってきている。

日本に来て困ったことにことばの問題が上がっているが、日本に来て間もない時期の問題であり、当初はことばの壁によるコミュニケーションギャップがあり、買い物一つするにもご苦労が多かったようである。

### 2. 妊娠について

妊娠に気づいて始めて受診する病院は在日ブラジル人のコミュニティの中の友人や知人の産科に関する情報を下に選択している。8事例とも友人や知人からの情報を下に決めている。事例と面接の中にも病院やクリニックに関する幾多の情報を聞いたが、細部に渡る内容まで知っていることから、コミュニティの中で情報交換が盛んに行われ、産科に関すること以外の生活に必要な情報も得ながら生活をしている。

出産場所を日本にするかブラジルにするかを決定する考えの基準に「夫の側で家族と共に出産を迎え

たい」と考えている。ブラジル人は家族の繋がりを大切にしている表れの結果である。もう一つは「ポルトガル語が話せる先生がいること」をあげている。異文化の下で、異文化を持った者が周産期を迎えることは異文化コミュニケーションをとるためにはことばが重要であることの結果といえる。

「母親意識や母性意識は妊娠の体験を通して高められていく」<sup>7)</sup>と新道が述べているように胎動、胎児の写真、お腹の膨らみが母親の自覚を高める体験になっている。

妊娠中に気をつけていることは食事、運動、睡眠、規則正しい生活を送るように心掛けている。これは、元気な子どもを産むことが親の希望であり、役割と考えていることは日本人もブラジル人も同じである。

### 3. 出産、産後について

出産時、産後に困ったことは出産の進行状態の説明がなかった。会陰切開の説明がないまま会陰切開をされた。帝王切開の説明が足らなかった。帝王切開の説明の中でことばの説明に理解できない部分があった。産後の頭痛の説明がなかった。など、説明不足に起因する困った事柄である。在日ブラジル人はそのつど説明を希望している。これは、医療者として当然、説明をしていることであろうが、在日ブラジル人が満足しないのは、ブラジルの医療体制がオープンシステムにより、クリニック、家庭医の所で説明を詳しく受けている。また、自分の受ける医療は自分が納得して受けたいと思っているためである。

産後に夫以外の支援者のいない状態で子育てをしているのは3組あるが、日本の場合は支援者を決めて応援をしてもらっている。在日ブラジル人はコミュニティの中での友人関係がしっかりしているので必要な時には応援体制が可能であるから決めていない。

### 4. 子育てについて

子育ての情報はインターネット、浜松市情報誌「広報はままつ」、友人、保健所などから情報を得ている。子どもの健診や予防接種の情報は浜松市情報誌「広報はままつ」や保健所など正確な情報が得やすい情報源から得ている。それは、浜松市情報誌「広報はままつ」はポルトガル語版<sup>8)</sup>が用意されていることや一世帯に一誌配布されている。それ以外は公共施設や国際交流協会、ブラジル銀行、ブラジル雑貨店などに置いているので、在日ブラジル人が利用しやすい状況にあるためである。西田<sup>9)</sup>は「異文化滞在者が、受け入れ文化における対人コミュニケーション・スキーマの間の関係についての情報を得ることは、異文化適応への必要条件である」と述べている。その点からも、正しい情報をタイムリーに的確に情報を提供できるように医療者は心掛けることが必要である。

子どものことばの教育はバイリンガルに育てたいと考え、何国人として育てたいかはブラジル人として育てたいと考えている。日系ブラジル人として育てたいは1組だけであった。これは異文化滞在者であるため、日系ブラジル人であってもブラジル人の意識を持って生きている姿勢が子育てに反映している。「デカセギ」に来て、日本語能力の差によって収入の格差が歴然と表れているため、子育てのことばはバイリンガルに育てることが子どもの将来に役立つと考えているからである。

## まとめ

1. 在日ブラジル人の滞在期間が長期化の傾向になっているように、滞在期間を決めていないなど長期の滞在になっている。これは、日本経済が不況にあり、仕事量の減少や雇用の解雇などが原因の一つであり、ブラジルの経済も不安定な状態にあることが滞在期間の長期化に繋がっている。8事例の滞在期間が4年から13年という期間がその現象のあらわれである。

2. 日本語の聞き取りと会話は16人とも困らない状況にあるが周産期のことになると専門的なことばや未体験の内容になることから理解できない場面があるが、ことばに自信のない夫婦は日本語能力の高い家族や友人、通訳の人と同伴で受診している。これは在日ブラジル人が事前にことばへの対応を友人や知人を介して通訳のできる人を自ら選択して受診しているため、ことばへの対応ができています。

3. 妊娠に気づいて始めて受診する病院は在日ブラジル人のコミュニティの友人や知人の産科に関する情報を下に選択している。8事例とも友人や知人からの情報を下に決めている。さらに、ブラジル人は家族の繋がりを大切にしているため、夫の側で家族と共に出産を迎えたいので日本での出産を考えている。

4. 医療・看護の説明不足に起因する事柄で在日ブラジル人が困ったことが多く、そのつど説明を希望している。これは、医療者として当然、説明をしていることであるかもしれないが、在日ブラジル人が満足しないのは、ブラジルの医療体制がオープンシステムにより、クリニック、家庭医の所で説明を詳



しく受けているためであると同時に、自分の受ける医療は自分が納得して受けたいと思っているためである。

5. 子育ての情報はインターネット、浜松市情報誌「広報はままつ」、友人、保健所などから情報を得ている。子どもの健診や予防接種の情報は浜松市情報誌「広報はままつ」や保健所など正確な情報が得やすい情報源から得ている。それは、浜松市情報誌「広報はままつ」はポルトガル語版が用意されていることや一世帯に一誌配布されている。それ以外は公共施設や国際交流協会、ブラジル銀行、ブラジル雑貨店などに置いているので、在日ブラジル人が利用しやすい状況にあるためである。

#### 引用・参考文献

- 1) 浜松市総務部広聴広報課, 浜松市市勢要覧, 29, (2002).
- 2) 久保田君枝, 周産期にある在日ブラジル人への看護の現状と問題点, 修士論文, (1998).
- 3) 池上重弘, “ブラジル人と国際化する地域社会”, 明石書店 27, (2001).
- 4) 浜松市国際室, 外国人の生活実態意識調査～南米日系人を中心に～3, (2000).
- 5) 前掲 4), 10.
- 6) 前掲 2),
- 7) 新道幸恵, “母性の心理社会的側面と看護ケア”, 医学書院, 109-113, (1990).
- 8) 前掲 3), 51.
- 9) 西田ひろ子, “異文化間コミュニケーション”, 創元社, 120, (2000).
- 10) 岡部 朗一他, “異文化コミュニケーション”, 有斐閣選書, (1999).
- 11) 李 節子, “在日外国人の母子保健”, 医学書院, (1998).
- 12) 渡辺雅子, “出稼ぎ日系ブラジル人” 上下, 明石書店, (1995).
- 13) 鍋倉 健, “日本人の異文化コミュニケーション”, 北樹出版, (1995).
- 14) ワスニナ・モニカ・孝子, “看護” 外国人のへの看護, 日本看護協会出版会, (1995).
- 15) 古田 暁, “異文化コミュニケーション”, 有斐閣, (1999).

(2003年3月20日 受理)